

令和6年度 第58回 中学生の「税についての作文」

『当たり前じゃない』

町田市立木曽中学校 3学年 堀場 紗彩

税金と聞くと、どうしても「とられる」という良くない印象がある。実際、多くの人が税金に不満を抱いているのが現状だ。私も少し前まではそのような感情を抱いていた。しかし、税金の使い道を調べていくうちにその考え方は変わった。なぜなら私や家族も税金に助けられているということを知ったからだ。

私は五人兄妹の三番目で兄が二人、弟、妹がいる。弟と妹は二週間の入院を経験している。弟は高熱、発疹が続き、川崎病の治療で免疫グロブリン療法というのを受けた。幸い、副作用もなく、熱は下がった。弟は退院してからも毎年、病院で心臓の検査を受けている。そして十一歳の今年の夏、経過観察は無事卒業となった。

妹は一歳七ヶ月のときにインフルエンザ脳症で北里大学病院に救急搬送された。大学病院で高度な医療を受けることができたおかげで妹は助かった。妹も毎年、大学病院へ経過観察に行っている。

弟、妹どちらの入院や経過観察の検査も多額な費用がかかるが、税金によって医療費が補助されていることを知った。税金があるからこそ私たちは安心して医療を受けることができる。医療における

税金の役割は非常に大きいと弟と妹のケースで実感した。他にも、私たちが毎日通っている学校への通学路、学校で使っている教科書、年金なども税金で賄われている。私たちの生活は税金によって支えられているのだ。しかし私たちはそれを当たり前と感じてしまい、税金のありがたみに気づくことができていない。税金は「とられる」ものではなく、「納める」ことでお互いの生活を支え合うことができると成り立っている。もしこの制度がなければ、私たちが当たり前だと思っている状態はどんどん崩れていくだろう。

私たち中学生はまだ消費税以外の税金を納めていないが、将来は社会の一員として税金を納め、誰かの命を救ったり、より良い社会をつくるために貢献し、恩返しをしたいと思っている。

私たちは今年で義務教育が終わって支えてもらう側から支える側になり、税金を納めていくことになる。私が大人になる頃には消費税率が十五%、二十%と引き上がっていくかもしれない。そんなときでも税の知識を深め、課題と向き合っていくことが大切だと思う。そして、税金に助けられたこと、感謝の気持ちを忘れずにいたい。

高齢者や将来を担っていく子ども達を支え、未来へ繋ぐ、それが私たちの使命だと思う。